

中国・北京春節(旧正月)2007年 チャンデンの廟会(縁日)

ジャンジャンと鳴るシンバルと太鼓の音が春節元旦の朝に鳴り響く。ここは天安門広場の南西、和平門から虎坊橋迄の南新華街である。両側に縁日らしい屋台が並び、見物客がひしめく中で春節を祝うパレードが始まった。春節の期間、北京の各所で廟会が開催されるが、チャンデンの歴史は古い。民代に始まり、一時37年間中断されていたものが2001年に復活したのだ。

この地域は大柵欄と呼ばれている下町の一つで、東京の浅草みたいな場所である。芝居や演芸館が多く、その芸人が住んでいることから、ここの廟会は大道芸が披露され、北京っ子の楽しみになっている。文豪魯迅の日記の中にも毎年訪れて楽しみ、ここで古書や骨董市を見るのが楽しみだと記載されている。

いろんなグループが出場している。シンバルと太鼓の行進に続いて、日本人にも馴染みの獅子舞、こま回し、物売りのものまね、高い下駄を履いた群れ、馬の格好をした踊り、扇で羽根をあおって蝶にみてる踊りと芸人の集団が続くが圧巻は10人位で叩く大太鼓と「中幡」と呼ばれる芸だ。皇帝の行進の際に志気を上げる目的で使われたと言われている「中幡」は重い旗竿をバランスとりながら手のひらや肩に乗せるもので、秋田の竿灯に似ている。



(シンバルと太鼓のパレードで始まる)

(ノスタルジックな物売りのものまね)



(獅子舞集団)



(こま回し芸人集団)



(蝶々舞の集団)



(二人馬の踊り)



(一人馬の踊り)



(中幡。重いし、風に煽られてバランスをとるのは難しいようだ。)



(高い下駄を履いた曲芸軍団、これで宙返りする)



(大太鼓。力強く、腹に響く)

これは春節元旦朝の一回限りの催しである。短時間で終了するので、このあとはそれぞれの目的で縁日を見て回るかお寺詣に散らばっていく。